

## CCBJ「三井のリパーク」に災害支援自販機

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは26日、三井不動産リアルティが全国で展開する駐車場「三井のリパーク」における赤十字災害支援寄付つき自販機の設置について協定を締結。26日には日本赤十字社本社で3社による協定調印式が実施された。



協定はコカ・コーラボトラー各社が「三井のリパーク」駐車場に設置している自販機約1,800台を対象に、収益の一部を寄付し、日本赤十字社の災害救護事業を支援するもの。寄付金で災害救護訓練や医療チームの養成、赤十字防災セミナーなどの活動を支援。また、大規模災害の発生時には義援金として、日本赤十字社から被災地に寄付される。席上、藤原義樹執行役員ベンディング事業本部長(写真右)は、「自販機は社会インフラの一つとして、利用する人に還元できるような取り組みを進めている。今回、三井不動産リアルティ社から相談を受け、このような協定が実現した。協定で災害救護事業を支援していきたい」と説明。三井不動産リアルティは全国で1万5,000カ所の駐車場を展開しているが、「駐車場は街における空間を確保しており、社会インフラとして役に立ちたい」(片岡純市三井不動産リアルティ常務執行役員シェアリング事業本部長・同左)。

## スリーボンド、伊W「テヌーテ・ルビーノ」

スリーボンド貿易はこのほど、イタリアワイン「テヌーテ・ルビーノ」を新発売する(写真は輸出マネージャーのフランチェスコ・デ・マウリ氏)。

同ワイナリーは、プーリア州南部・サレント半島のアドリア海に面したブリンディジに位置する。かつて、バルクワイン用の大量生産が求めら

れていたプーリア州で、同州ならではのアイデンティティの必要性を唱え、絶滅しかけていた土着品種のススマニエッコに着目。そのポテンシャルを見出し、01年に「トッレ・テスト」として、ススマニエッコ100%のワインを世界で初めてリリースし、ススマニエッコ復活の立役者となったワイナリー。スリーボンド貿易取り扱いアイテムは、「トッレ・テスト」(上代7,700円)、「スマレ36」(6,000円)など、スティール11品、スパークリング3品計14アイテム。



## EU18年乳製品輸出量、チーズ前年並み

農畜産業振興機構はこのほど、欧州委員会公表による18年EUの乳製品輸出量を発表。脱脂粉乳は前年比5.4%増の82万1,750t、チーズは0.5%増の83万2,492tとなった。全粉乳は14.9%減、バターは6.7%減と前年を下回った。

脱脂粉乳の輸出量は2年連続で増加。最大の輸出先はアルジェリアで、前年比7.9%増の14万3,264tとなった。2位は中国で、29.3%増の9万1,920t。この背景にはEUが抱えていた脱脂粉乳の公的在庫が重しになり、EU産脱脂粉乳価格が低迷していたことが考えられる。EUの脱脂粉乳の平均卸売価格は3月11日の週に100kg当たり192.01ユーロ(公的買入価格比で22.21ユーロ高)と上昇している。チーズの最大の輸出先は米国だが、18年は過去最高水準の在庫を抱えているため輸入量を減らしており、輸出量は5.1%減となった。2位は日本で12.5%増となった。カナダは30.7%増と大幅に増加。17年9月に暫定適用されたCETAで設けられた無税の関税割当枠を利用しての輸出が増えたと考えられる。全粉乳の輸出先1位のオマーンは、16.3%増、アルジェリアは59%減。バターの輸出量は6.7%減。米国は4.3%増、2位のサウジアラビアは11.6%増。